

2017

JAN. 1 vol.41

東京成徳広報



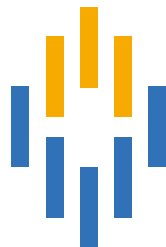
東京成徳学園「武道体育館」にて



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	巻頭言「これからの時代」 東京成徳学園 学園長 木内 秀俊
P 4	学長所感「学生の調査結果に見る学生像」 東京成徳大学 学長 海保 博之
P 5	学園の動き 教職員のメンタルヘルス 学園人事
P 6	ひと『活躍する卒業生』 JX-ENEOS サンフラワーズ キャプテン 吉田 亜沙美さん・間宮 佑圭さん 東京成徳大学高等学校 教員 天野 佳代子さん
P 8	「東京成徳ビジョン100」への取り組み 子ども学部 進路状況
P 11	TOPICS 大学院
P 12	経営学部
P 13	応用心理学部（福祉心理・臨床心理・健康スポーツ心理）
P 14	人文学部（日本伝統文化・国際言語文化）
P 15	短大幼児教育科
P 16	中高一貫部
P 17	高等部
P 18	深谷中学校・高等学校
P 19	幼稚園・第二幼稚園
P 20	入試カレンダー・お問い合わせ先



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク
イエローは「活力」と「勇氣」を表し、
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、
同窓生を象徴しています。
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五
本の柱は五つの教育目標を象徴していま
す。
そして、八本の柱が一体となり、東京成
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ
ニティを作り上げる姿を表現しています。

表紙 武道体育館にて剣道に励む

武道について日本武道協会は「我が国で体系化された武技の修
錬による心技一如の運動文化で、心技体を一体として鍛え、人格を
磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平
和と繁栄に寄与する人間形成の道である。」と制定しています。



「これからの時代」

東京成徳学園 学園長 木内 秀俊

11月の世界

2016年二つのできごとが世界を驚かせました。一つは6月にイギリスで行われたEU離脱の可否を問う国民投票で離脱派が勝利したことです。二つ目は11月に行われたアメリカ大統領選挙で共和党のトランプ候補が民主党のクリントン候補を破ったことです。

この二つとも大手メディアや有識者などの事前の予想を覆す番狂わせでありました。

これらの意味は何

この二つのできごとに通ずる点は、それぞれの国の中堅層（中産階級）が①グローバル社会への反発 ②急激かつ大量な移民の流入への拒否反応や不安 ③階層・地域間の経済・感情の分裂・対立の深まりを見せたことであり、グローバル化社会は人・物・情報

自由な交流をもたらすものでしたが、それはまた厳しい競争的な環境でもあり経済原則に沿って先

進国から労賃の安い発展途上国へモノづくりが移って行きました。そして先進国でも金融資本主義といわれる流れの中で経済的な格差が一層広がり、相対的に光の当たらない中堅層の弱体化や将来不安が大きくなって来つつありました。それに拍車をかけたのが域内往来自由を原則とするEUの東欧への拡大による移民の発生とシリア内戦などによる大量の難民の発生であると思います。移民・難民は先進国の安全・自由や豊かさを求めて移動するものであり、自然の流れです。ところが自由・民主・平等の価値観のもと経済的にも豊かであった先進国の中堅層が持つていた寛容さは、自分たちの生活の安定を脅かされる中で多少薄れていった感がします。中堅層はも

まったと言えましょう。この階層とも複合して地域による価値観や意見の分裂・対立が強まっており、地域の分離主義に繋がるものとして世界の各地で課題となっているのはご承知の通りです。

次期アメリカ大統領となるトランプ氏は「アメリカ第一主義」を掲げ、世界の警察官を辞めることも公言しています。善かれ悪しかれ世界を取り仕切ってきたアメリカの力が衰えてきたことの現れです。新しい国際環境下ではクリミアや南シナ海でのロシアや中国の行動が示すように、法の支配あるいは平和的な交渉よりも実力（武力）で現状を変更する自力救済の価値観を持つ国々と共存していかねばなりません。

我々が向き合う時代

遅かれ早かれバクスアメリカの時代は終わって行きます。国際社会の流れは当面自力救済（最終的には実力行使）の要素が強い環境が世界に広がって行くことと

見直す時期に来ているのかも知れません。日本人は「和」を重んじる国民と言われ、歴史を通じて日本人の根底には生きとし生けるものとの「共生」の思想が流れていると感じています。

ところで今教育の世界では、知識詰め込み偏重の教育からゆとり教育を経て体験教育・アクティブラーニング（学修者が能動的に学修へ参加する学びの形態）が求められる時代に入っています。この流れは個の確立の観点からも必然の流れだと思います。巷間言われる語学（会話）能力やIT活用能力も、他者とのコミュニケーションを図る上で有用なものであることは間違いないでしょう。社会という側面ではそれで必要十分ですが、しかしながら自力救済的要素が強まる国家という側面からは、根底に共生の信念を持ちながらも自分の価値観を平和的に粘り強くしたたかに主張できる能力が必要となります。それには自国の文化・歴史を踏まえた上での知恵や実行力や忍耐力の養成が欠かせないと考えられます。

こうした時代に在って我々日本人は自己の生き方を一度根本的に

まことに日本人にとって生き方の難しい時代に直面しつつあると感じています。



「学生の学修調査結果にみる学生像」

東京成徳大学 学長 海保 博之

学修調査とは

本学に入學し4年間の学生生活を過ごす学生諸君は、どのような学修行動をしているのか(学修行動調査)、大学で何を身に付けて卒業していくのか(学修成果調査)をきちんと把握することは、大学での教養を効果的なものにし、さらに激変する社会で活躍できる人材を送り出すためには、きわめて重要です。

そこで、平成28年度7月より2つの調査を全学的に実施し、今後継続的に学生の学修状態をモニタリングしていくことになり、その第一回調査が終わりました。

結果のごく一部を紹介します。(1370名が回答、有効回収率は80%)

「学修行動調査」

一、本学学生の典型的な(多数派

学生の)イメージ

「実家で自室を持ち、通学時間は1時間以内で、1週間に15時間前後のアルバイトをし、休日はアルバイトをしていないか、特に決まったことをしているわけではない。」

二、大学での活動についても、同様に典型的なイメージは

「大学にはほとんど毎日登校し、サークル活動には参加せず、授業中心で、8割以上の授業に出席し、その6割程度の授業に興味をもっていて、ある程度積極的に取り組んでいる。結果として、ほとんどの学生が4年間での卒業に自信を持っている。」

「学修成果調査」

項目が多岐にわたっているので、3項目に限って結果を紹介します。

一、本学の教育理念である「共生

とコミュニケーション」の認知度

ややお恥ずかしい限りなのですが、どの学年でも「まったく知らない」、「ほとんど知らない」とする割合が、6割弱もありました。周知の仕方の問題があるようで大いに反省しているところです。

二、進路(キャリア)意識が意外に早くから

「将来の進路は決まっていますか」の問に対して、「まったく決まっていない」と「ほとんど決まっていない」は3割強、残り7割弱は、程度の違いはあるがそれなりの進路を決めています。注目されるのは、6割半ばの1、2年生でも、すでに進路についての意識をしていることでした。これは、本学で実施しているキャリア教育の成果の一端ではないかと思えます。

の合計は増え、4年生では51%となつています。進路意識の強さに比して、4年生でもやや低いのが気になりますが、調査が7月というところで、就活での苦労が自己評価に反映しているのかもしれない。三、「本学に入學してよかったと思っているか」についての結果 「まったく思っていない」と「ほとんど思っていない」を合わせると、1割強。

「よかったと思っている」割合は、「多少は」の3割から徐々にその割合は低下し「大いに思っている」の1割強となつていきます。総合的には、ポジティブな評価が得られたものと解釈していますが、満足度のさらなる向上には不断の努力をしてまいりたいと思えます。

最後に

関連して、社会人基礎力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)は、全体では「ある程度・ほぼ・よく(すでに)」身に着いているの合計は39%56%の範囲内にあり、学年が進むにつれてここに公表いたします。

学園の動き

教職員の「メンタルヘルス」

労働安全衛生法の改正によってストレスチェックの実施が50名以上の事業場では義務化されたこと（平成27年12月）から、学園としては専任教職員全員を対象として平成28年9月中旬から10月上旬の期間にストレスチェックテストを実施しました。



教職員のこころの健康問題への対策は、本人や家族の問題にとどまらず、学校教育への信頼や円滑な学校運営の観点からも重要です。学園ではメンタルヘルス対策の予防的見地に立ってストレスチェックテストを継続的に実施することにしました。

実施に際しては、ストレスチェックの項目設定、同結果判定の他、個人情報・プライバシーに十分な配慮

が必要なこと等から、この分野で高い信頼性を有する(株)アドバンテッジリスクマネジメント社のWEBプログラムを利用することとしました。

このプログラムソフト上で「心の健康状態」を知るとともに、必要に応じたカウンセリング（家族の利用も可能）や医師面接の他、メンタルヘルス改善の学習コンテンツもあって、テスト以外にもメンタル面での有効活用ができます。

テスト結果の例



「コンテンツ」等の例

①「学習コンテンツ」、例…ワークライバランス、プチ・リフレッシュ

学ぶ

学習コンテンツ例

学習コンテンツは、あなたのメンタルヘルス状態を改善するために、必要とされているようなさまざまな内容をご用意しています。1つあたり、5分程度でお読みいただけます。



学習コンテンツは、チェック結果画面の「学習を始める」ボタンや「学習の進捗・履歴」からご確認いただけます。

②「ゼミナール」、例…メンタルヘルスの基礎知識eラーニング

学ぶ

メンタフ・ゼミナール

メンタフ・ゼミナールでは、メンタルヘルスの基礎知識について「eラーニング(15~20分程度)」で学ぶことができます。



③「ライブラリー」、例…食べ物、運動など、があります。

テスト終了済の方も、今一度ログインして頂き、これら付帯サービスも利用してみてください。

学園では、教職員が働きやすい職場作り、人間関係を含めた心理的にも快適な職場環境作りを基本方針として、メンタルヘルス対策に今後とも継続的に取り組んでいきます。

学園人事

平成28年8月—平成29年1月

採用

職員	所 属	氏名	配属・役職
教員	深谷中学	倉持雄基	専任講師
職員	中学・高校	大矢忠和	入試広報部(高等部)

異動

職員	所 属	氏名	配属・役職
大 学	岡村義繼	施設課長(千糸色)	
中 学	深山静夫	学生支援課長(八千代)	
高 校	渡部泰夫	事務長	

退職

職員	所 属	氏名	配属・役職
大 学	堀江佳奈	総合事務室(八千代)	
中 学	野平真由美	八千代総務課	
高 校	友坂 努	事務	
幼稚園	佐藤奈々	事務	
本 部	本田海	助手	

ひと

『活躍する卒業生』

『トッパスリートが語る』

バスケットにかけた青春』

JX-ENEOSサンフワーズ

平成17年度 中高一貫部 卒業

キャプテン 吉田 亜沙美さん

JX-ENEOSサンフワーズ

平成21年度 中高一貫部 卒業

間宮 佑圭さん

本学園高等部教員

平成19年度 中高一貫部 卒業

天野 佳代子さん

昨年8月のリオ五輪で女子バスケットボール日本代表は20年ぶりにベスト8に進出。

当学園出身の吉田亜沙美選手はキャプテンかつ司令塔として強いリーダーシップでチームを引っ張り、間宮佑圭選手は得点源のセンターとして大活躍されました。

今回は吉田さんの2年後輩で本校の教員となった天野さんとお三方で高校時代の思い出を始め、吉田さんが選手生活が危ぶまれるほどの大怪我を乗り越え見事にカムバックされるまでの苦闘を伺いました。

高校在学中に印象に残っていることは

平成17年東京成徳中学・高校が同時に全国制覇された祝勝会の記事（東京成徳広報）をなつかしそつに見ながら



左から 間宮さん 吉田さん 天野さん

Q・吉田さんはキャプテンの時、1年生で入部された天野さんを最初に見た時の印象は？これは使えそうかなと思いましたが（笑）

吉田・彼女はすごく細い選手だったので大丈夫かな、と心配しました。

Q・間宮さんはどうでしたか

吉田・私は後輩から話しかけられることはあまりありませんでした。怖いという印象があったようです。しかし間宮はそんなことは全くありませんでした。普通に話しかけてきました。

間宮・私は中3の時一人で高校の練習にいったりしていたので、そこで気にかけてくれ、自分も安心していました。

Q・天野さんは1年の時、3年生が強かったので大分良い思いをしたのでは

天野・大変有難いことでした。吉田さんは怖い時はありましたが、ちゃんとチーム全体を見ていたようです。怖いだけではありませんでした。

吉田・高校生でキャプテンをやっている時はキャプテンということをあまり気にしていませんでした。ただ自身プレーをしてそれに皆がついてきてくれればよいと思っていました。



間宮・高校時代の練習は監督が厳しく「走り負けないチーム」をつくるを、数えきれないくらいコートの中を駆けまわりました。しかし部活以外の日常生活が非常に充実していたのでバスケットに集中でき、すごく楽しかったです。桜花学園に一度も勝てなかったのは残念でしたが、自分自身も成長でき、それで現在の私があると思います。

天野・私は3年の時副キャプテンでしたが、高校時代で一番印象に残っているのは1年の時に全国優勝したことです。いつも吉田さんから良いパスがきて即得点に結びつく、本当に凄いなと思っていました。

吉田・私がドライブしていった場合に動いてくれる選手がいらないといけません。これは長年やっている信頼関係でしょうね。

大きな試練が

吉田さんは高校生の時読んだ本に「困難はそれを乗り越えられる人だけにやってくる」と言う言葉を座右の銘とされています。ところが栄光のバスケット人生を邁進する吉田選手に大変な出来事が起りました。

2014年2月、秋田で行われたWリーグの試合でリバウンドを狙った時、バランスを崩して着地し左膝を痛めてしまったのです。なんと「前十字靭帯断裂」全治10カ月という大怪我で選手生命の危機でした。帰京して医師の診断を聞いた吉田選手は「すごくショックでしたが自分では受け止めきれない。バスケットをやめよう、引退しよう」と思ったそうです。チームメイトをはじめ関係者の激励と助言で手術を決定。術後3週間の入院中はチームメイトが食事

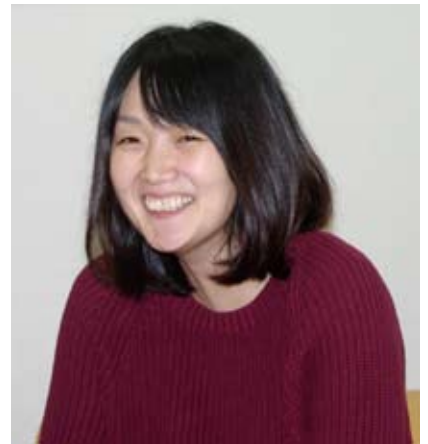


を差し入れたり、入浴の介助をしながら彼女を励ましました。

間宮選手は「吉田選手が離脱したが、自分達には試合がまだ残っている。なんとしても吉田選手を安心させなければならぬ。チャンピオンチームとしてチームをつくって吉田選手が復帰してさらにプラスαとしてレベルアップしなければならぬ。1日でも早い復帰を願っていた」と語っています。

Q. 復帰までの道のりは

吉田：リハビリ専門の施設で月曜日から金曜日まで泊まり込みでした。リハビリはまず歩くことから始めますがすごくきつかったです。走る事が出来るようになるまでの間がすごく長かったが、走れるようになってからは嬉しくて走ることが楽しかったです。左足の筋力をつけること、下半身の筋力をつけることに重点をおきました。週末は寮に戻り、チームメイトと会い、試合にも連れて行ってもらった。だんだん動けるようになって1月の皇后杯には出場できそうになった。予定より早くチームの理解もあって10分間だけ12月のWリーグの最終戦に出させてもらった。皇后杯の決勝戦では医師から



「20分が目安」と言われたが結局30分以上出させてもらった。

皇后杯を勝ち取り、リーグ戦も7連覇を達成、完全復活した吉田選手は、6月には日本代表の主将に抜擢されました。

この1年余のリハビリの辛さ、苦しさについて吉田さんは寡黙で身体的なことについては殆ど語られませんでした。

リオへの道を開いた逆転のシュート

リオへの切符がかかるアジア選手権の予選、強豪中国に1点ビハインドで残り10秒の時ボールをもった吉田選手にベンチから「フォーメーション」の指示。しかし吉田選手は残り8秒なので自らスタート。ドリブルで一人をかわしゴール下に切り込み、

残り3秒の時ラストショットを決め見事に大逆転。1次リーグ1位通過を決めました。吉田主将は「3秒あればもしシュートがはずれてもリバウンドがとれる」という緻密な計算があつたようです。

この沈着冷静なプレーがオリンピックで20年ぶりのベスト8という快挙に結びついたのです。

Q. 現在の心境は

吉田：リオを集大成としてやってきて達成感があります。今はWリーグの優勝です。

間宮：当面の目標はまず10連覇、それには今年9連覇が必要ですが。

天野：現在東京成徳の教員として、バスケットボール部アシスタントコーチになりました。現在のチーム状況をみると、かつての吉田先輩や間宮さんのようなスターがいないのでチーム力を高めていくしかない。以前はチームメイトに恵まれ勝つことの苦労はあまり感じませんでした。指導者の端くれとして勝つことの難しさをしみじみ感じています。私は新しい教員生活に慣れ、教員として徐々に成長していきたいと思っています。

東京成徳ビジョン 100 への取り組み

子ども学部の新なる展開に向けて



子ども学部長
永井 聖一

子ども学部は平成16年、日本で2番目、東日本で最初の「子ども」学部として創設され、さまざまな意味で注目を集めてきました。

それから12年、現在この学部は次の発展に向けて多くの課題を抱えています。この間を振り返ると、先駆的ではありますがそれ故に難しい課題を内包するこの学部が、まずまずの成果をあげてきたといえることは、何よりうれしく、関係の皆様は心からお礼を申し上げたいと思っております。

「子ども」を冠する学部、学科が他大学にも多く設置されるようになった今日、東京成徳大学の子どもの学部は、新たな展開を遂げて他大学

との差別化を図るとともに、「子ども学」の研究と教育を通してその社会的使命を果たし、それが学園のさらなる発展にもつながることを目指しています。皆様のご支援、ご叱正を重ねてお願い申し上げます。

2016年成徳ミニコンサート

准教授 長野 麻子

2016年12月3日、「命のリズムを刻む」打楽器が引き出す身体表現」というテーマで、子ども学部公開講座が行われました。講師には打楽器奏者の伊勢友一先生、本学子ども学部助教の岡千春先生を迎え、総勢97名の受講生にお越しいただきました。

伊勢先生は前回のミニコンサートに続いて、本講座においても打楽器の魅力をふんだんに紹介してくださいました。会場には伊勢先生が持参された世界各国の打楽器がずらりと

並び、講座の前半ではそれらの簡単な演奏を交えながら、打楽器の起源やリズムの意味についての解説が行われました。その後、伊勢先生の打楽器と岡先生の身体表現のコラボレーションが披露され、オリジナルのパフォーマンスが繰り広げられました。使われた打楽器はなんと植木鉢！大小さまざまな素焼きの植木鉢をマレットで叩くと、実に素朴で温かみのある音色がするので、その独特の響きの中で、岡先生が自在に空間を操り、身体のリズムを生み出してゆき、その力強くも幽玄な様に誰もがうっとりとして見入っていました。

講座の後半では両講師の指導のもとに、受講生が自ら身体を動かし、リズムを作り出す番となり、バリ島の有名なケチャを模した「成徳オーケストラ」の初演に挑戦しました。全員が一つの輪になり、手拍子、足踏み、身振り、声、持参した楽器類を素材に、伊勢先生の指揮に合わせ、雨の音を表現するところから開始しました。そして好きな音でさまざまなリズムを刻み、強弱でグラデーションをつけ、互いに掛け合う

講座の後半では両講師の指導のもとに、受講生が自ら身体を動かし、リズムを作り出す番となり、バリ島の有名なケチャを模した「成徳オー



ように自らを表現していくという流れで、初めての試みに最初は緊張も見られました。しかし徐々に波に乗るように、全員が協力し合い、最後には97人ならではのダイナミックなリズムのオーケストラが完成しました。感動的な瞬間でした。

「アメリカ研修旅行」の実施と今後の検討事項

助教 増田有紀

子ども学部には、3年生を対象に「子ども問題海外研修」（通年科目2単位）という授業があります。開講から11年目を迎えた今年度は、前期にアメリカ西海岸（サンフランシスコ・ロサンゼルス）の保育・教育事情について事前学習を行い、10月16日から10月25日までの10日間、学生67名及び引率教員3名で研修旅行に行つてまいりました。

この研修旅行のメインは、子ども学部の協定校であるサンフランシスコ州立大に計画していただき、市内の保育施設や学校等の見学及び、

州立大学内での講義です。見学先は、市内のヘッドスタートプログラムに参加する保育所、州立大学内にある高所得者層が多くを占める保育所、低所得者層の子育て支援をメインとする母子家庭支援センター、学校選択制が導入された幼稚園から中学校までの公立一貫校、特別支援教育に力を入れている公立小学校など、多岐にわたります。全て同市内にありますが、それぞれ訪問先で出会う子どもたちの家庭環境、運営プログラムは大きく異なります。教職員や現地の子とも関わる時間も十分にありまます。多民族国家であり、資産格差の厳しいアメリカならではの保育・教育現場を肌身で感じながら、見学先同士や日本との違いを比較するなど、非常に有意義な見学となりました。

このような見学を踏まえ、サンフランシスコ州立大学で2つの講義を受講しました。一つ目は、アメリカの幼児教育制度について、就学前教育や保育者の待遇など、日本と比較したディスカッションを交えて行われました。二つ目は、幼児向けの音楽表現の重要性について、近隣の幼稚園に通う子どもたちの実演も交えながら和やかに行われました。講義後は、学長・学部長名の入った研修修了証明書を先生方より1人ずつ手渡ししていただき、研修の成果を確認できました。その後、州立大で接客サービスについて学ぶ学生による昼食サービスやキャンプ紹介もあり、教員だけでなく学生間の交流も一層深めることができました。

この研修旅行のメインは、子ども学部の協定校であるサンフランシスコ州立大に計画していただき、市内の保育施設や学校等の見学及び、

家族の様子を見学しました。子ども学部と州立大学は昨年度に2度目の協定改定を行い、多くの方の長期的なご支援・ご協力をいただいております。11年目の今年度も無事に研修を終えることができ、学生の満足度も非常に高かったようです。今後は、前期に実施する事前学

サンフランシスコ滞在後は、ロサンゼルスへ移動しました。2都市は同州にもかかわらず気候や街の雰囲気は一変します。研修では、美術館や庭園、デイズニールランドを訪ね、文化・観光・娯楽施設における子ども

この研修旅行のメインは、子ども学部の協定校であるサンフランシスコ州立大に計画していただき、市内の保育施設や学校等の見学及び、



習の内容改善や、先方からの訪問受入れに向けて、両大学の連携を一層深め、より充実した学修環境を提供できるように努めていきたいと考えています。

子ども学部

子ども学とは(リレー掲載②)

「子ども学」を研究・教育するこの重要性

准教授 青木 研作

私が大学受験をした約20年前には「子ども学」を学べる大学はなかったと思うが、それから現在までに、「子(こ)ども」を冠する学部や学科をもつ大学は全国に広がっている。「子(こ)ども」の名称をもつ学会も設立されるようになり、「子ども学」は大きく発展している学術分野の一つだといえよう。

私の専門は教育学であるが、「子ども学」に関わるようになったのは、以前勤めていた大学の子ども学部のテキスト作りに参加したことがきっかけである。子どもへの学際的アプ

ローチこそが「子ども学」の面白さであり、また子どもという存在の本質に迫るための最適な方法であり、そしてこれにより得られる多角的な視点や知識が子どもに関わる専門職の養成において大切になるといふ編集方針のもと、さまざまな分野の研究者と何度も研究会や編集会議を開いてテキストを作り上げる作業は、刺激的で楽しいものであった。

今日、環境の急激な変化により、子どもの育ちをめぐる問題は複雑化・深刻化している。子どもに関する伝統的な学問の研究成果に基づきながらも、その枠を越えて、子どもについての科学的理解や子どもの幸福の実現に寄与することをめざす「子ども学」は、今の時代に求められている学問である。本学の子ども学部は東日本で最初に設立され、子どもの育ちを支援する職業へ多くの人材を輩出している。この学部の一員として、研究・教育の両面で「子ども学」の発展に貢献していきたい。

進路状況

就職に強い大学とは

「就職に強い大学」の要素を分解すると、(就職率)×(就職の質)となります。(就職率)とは、卒業生に対する就職者の割合。就職率を高めるためには職業観・就職観を涵養することが大切です。この点において、本学では低学年時からキャリア教育を行い、3年時には全学生と個別面接を実施しているため、高い就職率を誇ってきました。(現4年生の就職率は昨年と比して十条台キャンパス、八千代キャンパスともに15ポイント程度高まり、他大学と比較しても高い水準で推移しています。)

もう一つの指標は(就職の質)です。これは、就職者の中で上場企業など難関企業にどれ位就職しているかです。この点においても、昨年と比して十条台キャンパス、八千代キャンパスともに5ポイント以上高く推移しているので、好調と言

えるでしょう。

団体戦で学生を支援

4年生が卒業するまで期間も少なくなってきましたが、全員が進路を決定して卒業出来るよう、保護者及び教員・職員が連携しながら学生を支援する「団体戦」で学生を支援していきたいと思えます。

進路状況

大学

子ども学部(子ども学科) 80.7%

経営学部(経営学科) 86.8%

人文学部 73.0%

(日本伝統文化学科) 75.0%

(国際言語文化学科) 84.6%

(観光文化学科) 50.0%

(応用心理学部) 76.0%

(福祉心理学科) 67.6%

(臨床心理学科) 74.1%

(健康スポーツ心理学科) 82.5%

大学平均 79.4%

短期大学 89.4%

(平成28年12月25日現在)



心理学研究科長
新井 邦二郎

心理・教育相談センター

本センター（センター長・田村節子教授）は、大学院生の臨床実習の場としての役割と地域の人たちの心理相談の場としての役割を担っています。相談内容例として、「自分の性格に関する悩み」「気分の落ち込みや不安」「家族（親子関係・夫婦関係）についての悩み」「仕事



上の問題」「育児に関する悩み」「子どもの学習上の課題や進路についての悩み」「不登校や登校しぶり」「発達の遅れや障害に関する悩み」などを受け付けています。

平成27年度に来談に来られた方の総計は五六六人でした。来談者の人数を月ごとに示した表を作りました。月に平均して40〜50の方が相談におこしになります。

相談件数のうち、地域の方の相談が六割、学園関係の方が四割でした。ちなみに、相談料は初回の面接として三〇〇〇円、継続しての面接の場合二〇〇〇円、親子で並行面接を行う場合三〇〇〇円（子どもの遊戯療法も含みます）を頂戴し、学園関係者には大幅な割引も行っています。

昨年の4月に王子から十条台キャンパスに移転しました。移転後に来談した方からは、「綺麗なキャンパスですね」「駅から近くて便利です」など、良い評価をいただいています。また板橋区から相談にみえる方が増えています。さらに、十条台キャンパスの教職員の方からも関心を寄せていただいております。

ある先生からは「社会に出た卒業生に悩みを相談されたときに相談先として紹介できるのでよかった」とのお言葉を頂戴しました。これからも、地域や学園の方々にと役立つ相談活動を続けていきたいと考えております。

中高一貫部におけるボランティア活動

心理学研究科は、毎年、修士1年の院生をボランティアスタッフとして東京成徳大学中高一貫部に派遣し、西村昭徳准教授の指導の下、教育相談担当の先生方と連携しながら相談室運営の補助的な活動を行っています。今年度は、6名の院生が水曜と木曜の11時〜16時30分の間、活動しています。主な活動内容は次のようなものです。

- ① 相談室開放：休み時間や放課後に、相談室に来室した生徒の話し相手になり、雑談をしたりゲームをしたりして過ごします。
- ② 集団活動への参加：文化祭の準備に参加させていただき一緒に作業したり、仲間づくりのグループワーク（構成的グループエンカウ

ター）を行ったりして、生徒とのふれあいの時間を設けています。

- ③ 校内の教育相談研修会への参加：定期的に行われている校内研修会に参加し、教育相談担当の先生方と一緒に、校内の相談体制をよりよいものにするための方策の検討に加わります。

将来、スクールカウンセリングや教育相談に携わりたいと考えている院生にとっては、生徒と実際に触れ合いながら、学校全体の動きを知ることが出来る貴重な機会になっています。



経営学部

経営学部における基礎演習

教授 鶴瀨由己

少人数制の利点

オープンキャンパスで高校生にもよく言われますが、我々経営学部では、教員と学生との間が親密であるような雰囲気があります。これは「少人数教育」を行っていることが寄与していると思われれます。我々は、学生にとって疑問や悩みを何でも教員に相談でき、また教員側も学生一人ひとりの状況を細かく把握できるようにすることを目指しています。

そこで4年間の少人数教育を説明すると、入学した1年生は、まず「基礎演習」という少人数クラスに配属され、学生生活に必要な技能の訓練を行います。

2年の後半から学生の学びたい分野の専門の教員につく「ゼミナール入門」がはじまります。3年、4年でも基本的には同じ教員のゼミに所属することになります。ゼミナールでは、勉強だけでなく、プライベントでも盛んに交流し、一生続く人間関係をそこで育むことになります。言い換えるとゼミナール等

は経営学部での学生生活の最も基本的な場所ということになります。このようにして学生は4年間を過ごすことになります。

1年生の基礎演習（前半）

昨年の1年生の状況を例にとつてみると、5〜6名の学生で1クラスを構成しています。各人に教員が個別面談をして個人的な状況を把握している場合もあるようですが、基本的に少人数なので、教員と学生はすぐに顔と名前が一致するようになり、学生の資質や就学環境なども細かく把握できます。

経営学の勉強において企業の動向に関心を持ってもらうことが重要なので、最初に日本経済新聞の読み方に関する講義を行います。それに引き続き日本経済新聞を基礎演習で配っておりませんが、これは新聞を読むくせをつけてもらうことをねらっています。このような習慣を身に着けることは4年生になってからの就職活動にも大いに役立つことを考えてのことです。また図書館ツアーを行い図書の検索だけでなく、情報端末で日本経済新聞などの新聞記事検索により情報を集める訓練を行います。

次に自己紹介のプレゼンテーションをパワーポイントなどを使って行ってもらいます。その際、論理的に説明することを学びます。また新聞記事などの文章の読解に より、他人の文章を正確に理解することができま す。

基礎演習前半の締めくくりとして、最後に株式ゲームを行います。まず、全体での株式とはなにかという講義の後、実際に新聞の株式欄を 読んで、投資先を決めてヴァーチャルな1千万円の株式投資をしても らいます。投資先を決めるのはなかなか難しいのですが、ヴァーチャルでも実際に投資することにより、株 価に影響を与える様々なイベント への感度を高めてもらいたいと考 えています。

後期の基礎演習（後半）

後期では、「ビジネスアイデアコンテスト」を実施します。まず、その準備として発想力を高めるためのテストや、実際に発想するブレインストーミングを行います。

さらに集団で発想されたアイデアをまとめる技法を体験したりします。

ある程度準備ができたところで、

ビジネスアイデアをひねり出してもらう段階に入ります。これは、1人でもしくは3人以内のチームで新しいビジネスについて学生に考えてもらいます。アイデアのテーマがまとまったら、さらに、そのビジネスの顧客や市場、また事業を行う費用も実際に想定してもらいます。

このようにして、ビジネスを実際に行うための事業計画書のスケッチを描いてもらうことになりま す。次にこの事業計画について他人に説明するためのプレゼンテーションの資料を作成します。学生諸君は、動画や音声、パフォーマンスなどで教員もびっくりするようなプレゼンテーションを行ってくれます。

このコンテストは、これまで予選をスパリゾートハワイアンズで行い、決勝大会を目黒雅叙園でおこなってきま した。そして入賞者には賞金も出すという本格的なものです。このようなことをする狙いは、学生諸君のプレゼン能力、事業開発能力を高めてもらうことは勿論ですが、それと共に、経営学部で企業経営とは何かということを学ぶ意欲を高めてもらうことが重要と考 えております。

応用心理学部

【福祉心理学科】

現場で活躍する卒業生をロールモデルにして

平成5年の開学から数えて、今年度は24期生を迎え入れました。本学科を修了した卒業生の多くが社会福祉分野や医療分野、教育分野で活躍しています。乳幼児、児童、高齢者、障害者など対象はさまざまに異なりますが、地域福祉の充実に貢献しています。開学当初の卒業生はすでに40代、責任ある立場についています。卒業生の活躍は教員のみならず、在学生にとっても誇りです。自分たちの将来の目標であり、ロール（役割）モデルです。今年も社会福祉士、精神保健福祉士、教職の実習の前に、卒業生を招いて特別講義を行い、実習の意義について語ってもらいました。そこでは対象者の立場に立って考えることの大切さが強調されました。12月まで実習が続く学生もいますが、4年生の多くはすでに就職先が内定。千葉県（公務員）や教職（特別支援教育）の学生もいて、将来の活躍が楽しみです。「共生とコミュニケーション」にふさわ

しい学科として今後も学科の充実を図っていききたい。来年度の入学者は25期生。四半世紀の区切り目となる入学者を迎えます。

【臨床心理学科】

【子どもの発達を支援する学校心理学（公開講座）】

10月の桐友祭では、特別企画として、北区と近隣小・中・高等学校の先生方を対象に公開講座が開かれました。臨床心理学科には、学校・子ども領域の経験豊かな多くの教員がいます。現場の先生方と連携し、学校生活で苦戦している子どもたちを支援しています。子どもたちの学校生活がより充実したものであるよう、また保護者や学校の教職員の助けになるよう努めています。



この度の公開講座では、近年注目されている発達障害を抱える子どもについて、学校心理学の視点から支援の方法と考え方を紹介しました。司会の西村准教授が講座の全体像を説明した後、菊池助教が「発達障害」について、グループワークや事例を交え、子どもの思いや、その思いを解説しました。続いて、田村教授（心理・教育相談センター長）が「学校心理学の三段階の教育援助」と題して、学校心理学の基本的な枠組みを話されました。いかに発達障害の子どもを丁寧に見て、チームで支えるか、援助シートを活用した援助方法を提案しました。さらに石隈教授が指定討論を行い、北区教育委員会主

デイや基礎学力確認テストなどを実施してきました。さらに今年度から1年生を対象に「PROGテスト」を始めました。このテストは、大学で学んだ知識を活用した問題解決能力や、周囲の環境に働きかけて対処する能力を測定・評価します。大学教育を通じて社会で求められる能力や態度や志向を意識し、学生の学びをより主体的なものにすることを意図しています。結果を教育に反映できるものと期待しています。

事の先生や、特別支援教室専門員、スクールカウンセラーの先生方からも活発な議論が飛び交いました。とても有意義な時間でした。

【健康・スポーツ心理学科】

将来をみすえて意義ある学びの時間を

健康・スポーツ心理学科では、社会人としての基礎を育成する一環として、一期生からフォーマルドレス

また、キャリア関連特別講演を実施しました（10月20日）。「自分の将来を真剣に考える…考動できる人材」と題して、山崎聖介氏（元城西大学野球部・人材育成コンサルタント）が学生に熱く語りました。学生が将来を見据えて、大学での学びを意義ある時間にするよう意識してほしいからです。「どうにかなるだろう、と思っただけでは、どうにもならないと気づかされた。今から将来を考えた生活をしていくことが大切だと思った」（1年生男子）。このような思いが日々の行動につながるよう、教員一同、一層の教育指導に努めています。

人文学部

人文学部の活動

平成28年度の教育活動の特徴

1. グローバル人材の育成を目指した活動

グローバル人材の育成を目指した活動が国際言語文化学科を中心として行われています。新しく始まったこととしては6月に上海の華東師範大学と交流を結び、交換留学ができるようになりました。早速後期から1名が留学しています。12月の時点で、前述の中国への留学生の他に、国際言語文化学科で韓国語



開南大学正門前にて

を第一言語として履修している9名の学生が韓国へ留学中であり、活

発な国際交流を行っています。国際

言語文化学科でこのように留学が

盛んである理由の一つとして、1年

次の海外研修があります。今年度は

9月上旬に台湾の開南大学での交

流活動を中心に行われました。開南

大学とは交換留学の協定があり、本

学へも毎年留学生がきています。新

入生の時のこのような交流が、留学

への思いを強く後押ししています。

2. 教育方法の工夫

知識偏重だけではないアクティ

ブ・ラーニングの必要性が説かれて

いますが、人文学部では早くからこ

の考えを取り入れた、座学だけでは

ない学びを目指してきました。

ここでは日本伝統文化学科で昨

年から開始した、年間テーマを設定

した全学科教育についてご説明し

ます。本学科では新たな学びを目指

して学科統一テーマを設け、学科全

員で一つのテーマに沿って学び、そ

の成果を共有するという試みを行

今年度は学科統一テーマ「百人一首イヤー」を掲げました。



6月「競技かるた模範演技と

ワークショップ」の催しでは、早稲

田大学かるた会の方々を招きました。

10月 翠樟祭では、大学が所蔵す

る江戸期の百人一首の本を学生が

調査して解説をつけ展示しました。

11月 今年百人一首イヤーに参

加した演習（古典文学・芸能史・文

化史・近現代文学）の履修学生が、

それぞれの視点から研究した百人

一首についての発表を行い、全学科

の学生が全員聴講しました。

このように学科全体で一つの

テーマを追求することで、様々な切

り口からの学びを「百人一首」を通

して共有することができます。ま

た、催しや合同発表会によって学年

を通じた交流が生まれ、特に下級生

にとってはこの後の学びの様子を

先輩の発表によって見ることがで

新しい教育方法の試み

学習管理システム(Moodle)を活用した学び

共通領域部を中心に行われているMoodleを活用した学びです。

このシステムは授業時のみならず予習・復習などの時間外学習を支援

するためのもので、主に語学科目および情報処理科目において提供されていますが、今後はより多くの科目

で導入されるように計画中です。また、平成29年度入学生から初年

度教育の強化・キャリア教育の充実を図るため新カリキュラムが導入

されます。共通領域部が担う「基礎・教養」科目では、1年次の必修科目

として全科共通の「スタディスキル」「文章表現演習」を新設します。

さらに「コミュニケーション演習」を2年次の選択科目として新設し、

キャリア教育の一層の充実を図りました。

人文学部では様々な新しい試みを取り入れ学生のより良い教育を目指してまいります。

皆様の温かい見守りをお願い申し上げます。

短期大学

短期大学の「東京成徳ビジョン100」に向けた課題と展望

短期大学幼児教育科長 安見 克夫



短期大学は、創立100周年に向けて新たな改革として「東京成徳ビジョン100」を策定しており、策定から1年が経過し、取り組みをスタートしたばかりです。昨年、短期大学50周年を契機にさらなる取り組みとして、短期大学の恒久性と社会から求められる保育者養成を目指して、「幼児教育のグローバル化」「特色ある成徳短期

大学」「実践力・即応力・人間力の育成のため附属園との連携強化」「大学と短期大との連携」そして「地域社会との連携」などを強化し、関東圏において、特質ある教育の発達を目指します。そこで、短期大学では、こうした課題を具体化していくための取り組みが、様々な計画の下に実践されつつあります。

昨年1月末には、附属園の表現発表会リハールを楳の木ホールでおこない、実践の取り組みを学生が学ぶ機会を得ました。また、附属園の副園長先生にお越し頂き、保育者としての心構えなどをお話して頂きました。

また、併設校との強固な連携を図るため、一昨年から大学より講師を派遣して、併設校の生徒や受験生、保護者への講義・講演を行うなど活発な交流を展開し、東京・埼玉・千葉のネットワークの構築を目指し事業展開しております。

さらには、特色ある人材の育成に向けては、近い将来改訂される新カリキュラムの編成と本学の精神をどのように組織化し、人間力の育成を推進していくかを学務部におい

て検討しております。その関連で、すでに科目と3つのポリシーとの授業評価を行い、その成果を上げつつあるところです。また、学生が実践力を培う為に、近隣の幼稚園や保育所にお願ひし、参加型観察を取り入れるなど、さらなる取り組みを展開しています。

今年の桐友祭は、例年に増して2000名ほどの来場者で盛り上がりました。特に近隣の方々には、これまで以上に声かけさせて頂き、子ども達が大勢来場下さいました。子ども達は、日溜まりの中で思い思いに模擬店で買い物しながら、本学ボランティア部の学生が演じるパネルシアターや紙芝居などに参加し、学生たちも先生になった気持ちで真剣に取り組んでおりました。お越し下さった子ども達も楽しい一時を過ごされたことと思います。

こうした社会貢献活動を通して、学力のみならず、保育者になる自覚を育て自信に繋がる良い機会となりました。

今後に向けて、平成27年にスタートした幼保連携型認定子ども園への移行に伴い、ここ数年少子化対策

として、保育所が各地に増設され、その結果保育士が不足するといった状況に陥っております。内閣府をはじめ所管では、様々な施策を打ち出す中で、保育職の負のイメージが強調される結果となり、志す生徒の足を引きずらせる要因となつてしまっています。幼児教育の魅力とやり甲斐ある職業である事を短期大学から発信し、マイナスな職業の印象を払拭していかなくてはなりません。新たな課題に挑戦的意欲を持って「東京成徳ビジョン100」に取り組む姿勢が求められています。



中高一貫部

主体的に学び自らの考えを発信していく力を伸ばそう

我々の受け持つ生徒たちは東京オリンピックが開催される年に大学生となる学年です。中には学生ボランティアとして大会運営に携わる生徒もいることでしょう。オリンピックの開催云々にかかわらず、急速に変化をしていく現代においては、各々の知識を有効に活用して社会に貢献する力が今まで以上に必要とされることが明白です。

そのような時代を生きる彼らに対し、中高一貫部第3学年団は「主体的に学び、自らの考えを発信していく力を伸ばそう」というテーマを学年目標として取り組み、①ICT機器の積極的活用、②グループワークの機会確保、③学年企画プレゼンテーション大会の定期開催などを行ってきました。

ここではその一つとして京都・奈良修学旅行中の取り組みを紹介します。今回の修学旅行では4名から6名程度の研修班につき一台のiPadを貸与し、自習研修の様子の記事および研究内容の編集をさせ、以下の課題を与えました。

①奈良と京都における自主研修の

様子を記録し、3分前後の旅番組(動画)を制作する。

②京都での自主研修で散策した各所を紹介する旅情報雑誌を電子書籍として制作・出版する。

なお①については夕食後の自由時間を使って編集作業をし、翌日の夜に上映会を行い、全班の上映後にはICTを活用した投票システムによって順位を決定した。その日に調べたものを約二時間で編集して番組を作るといった制約の中で、互いに知恵を出し合いながら共同作業を進めプロジェクトを完成させていく姿は頼もしささえ感じるものであります。②については現在作業中です。

次に学年テーマに基づく英語科の取り組み、中でもグループワーク及びICT機器の活用について紹介します。

検定教科書や問題集を用いた文法事項の反復練習はもちろんですが、教師からの講義形式のみならず、生徒同士で学び合う機会を多く作っています。具体的には、1つの長文や文法問題のヒントや解説を4分割し、それらを教室の4カ所に貼り、4人組グループで分担し、それぞれが自分の担当する情報を集め、4人全員で情報共有をするとい

う流れです。グループでジグソーパズルのピースを集めて全体像を完成させるといったジグソー法を取り入れることで、協調性や社会性を育て、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせることを狙っています。グループのメンバーのために読み、自分の情報が人の役に立つという経験が、次の学習へのモチベーションにも繋がるのです。この他にもペアワークを多く取り入れ、一活動ごとに感謝し合って席を替え、相手を替

え、多様性を認め合い、感謝し合う雰囲気大切にしています。

また、英語科の別の取り組みとして「2020年のオリンピックまでに東京を紹介でき、おもてなしができるような人材を育成する」という目標の中、学年と連携しながら、普段行われている英語Aの授業や、鎌倉校外学習、京都・奈良修学旅行の中でICT機器を活用しながらの英語コミュニケーション力や表現力の育成に心掛けました。

今年度の3年生への課題の一例として、学んできた文法事項(現在完了、受動態、関係代名詞)の知識を使い、グループで王子近郊の名所・歴史・名物などを紹介、さらには外国人観光客へのインタビューなどのフィールドワークを行いました。

また、京都・奈良修学旅行においては学年の課題とは別に「仮説」↓「現地調査」↓「考察・結論」の3ステップを意識させた英語での映像作りを行いました。(例・祇園の街を歩いている人達はみんな着物を着ている?!、外国人観光客はみんな寿司を食べた?!等の仮説を生徒自身で立てる。)

英語科の取り組み

ICT機器を使いこなすことがゴールではなく、多様化した国際社会で生き抜いていくためにICT機器の活用力と語学運用力、また論理的思考力をバランス良く鍛え、そうした力を活用していくことが求められていますと強く実感しています。

これらの取り組みの集大成として、1月から3ヶ月間のニュージールランド学期留学に参加する生徒たちには今まで培ってきた力を存分に発揮してきてほしいと期待しています。学期留学に参加しない生徒たちにも、学期留学参加者たちと同様に、英語を用いて自身の情報を発信する機会を与えたいと考えています。そのために、都内の観光地を英語で紹介する情報雑誌作りを課題とする予定です。

高等部

東京パラリンピックを目指して

3年A組 池愛里

世界中が注目したりオデジャネイロでのオリンピック・パラリンピックに本校高等部3年生の池愛里さんがパラ・競泳の部に7種目出場しました。その軌跡について池さんにインタビューさせてもらいました。



Q「パラリンピックを目指したのはいつ頃からですか？」

「中学3年生の時に、2020年の東京パラリンピックの開催が決定しました。私はそのパラリンピックに出たい!と思いました。ただその時はリオ・パラまでは考えていませんでした。」

Q「高校2年生の時、11月〜2月までオーストラリアに語学研修もかねて水泳留学しましたね。その時の気持ちを聞かせてください」

「本気でリオに行きたいと思ったのですが、日本には強化してもらおう環境がありませんでした。そんな時、

ある方からオーストラリアへの留学を進められ、その恵まれた環境に飛び込むことを決意しました。そこで水泳指導は全く日本と違っていました。日本では障害クラスを聞かれたことなどないのですが、オーストラリアではそのクラスでの成績を上げる指導を徹底的に受けました。練習は週に10回で、練習量も凄いものでした。生活面では言葉も違うし、すべてを自分でしなければならなかったので大変でしたがとても勉強になりました。」

Q「3月の最終選考会はどうな気持ちで臨みましたか？」

「一発勝負で緊張したのですが、ここにすべてをかけていたので力は出し切れました。リオの代表に決まった時は本当にうれしかったです。」

Q「リオ・パラ大会前の合宿やリオでのリハーサルはいかがでしたか？」

「一学期はとても苦しかったです。合宿やリハーサルなどで学校に行ける日も少なかったので勉強にはとても不安を感じました。それ以上に大会を意識しすぎた自分がいました。それが苦しかったです。」

Q「パラリンピックでの感想を聞かせてください」

「自分が想像していた以上の凄い大会でした。あんなに緊張したのは初めてです。特に初日は自分が何をしているのかわからないような感覚でした。大会前はあまり調子が上がらず、不安を抱えていたのでなおさら緊張したのかもしれない。スタートの時は震えが止まりませんでした。3日目の100m背泳ぎの時にようやく自分を取り戻したように思います。しかし惜しいところで予選落ちをしてしまつてとても悔しい思いをしました」

Q「今回のパラリンピックで学べたことと東京パラリンピックに向けての抱負をお願いします」

「今回の大会で感じたことは、私は『自分の事をまるで知らない』、ということでした。だから自分を見失って思い通りに泳げなかったんだと思います。もつと自分としっかり向き合わなければ!と感じました。自分を大切にしないといけないことも痛感しました。だから自己コントロールができないんだと思います。そこに真剣に取り組むことが東京でのメダル争いにつながると感じています。」

Q「最後に応援してください」

「一言お願いします。」

「最後までパラリンピックへのモチベーションを保てたのは、応援してくださった方のおかげです。ありがとうございました。東京では決勝でメダル争いができるまでに力をつけていきたいです。そして日本にもっとパラリンピックの意識・活動を広げていければいいなと思っています。これからも応援よろしくお願いします。」

尚、池さんは11月に行われた日本身体障がい者水泳選手権、バタフライでアジア新記録を樹立しました。もう東京パラリンピックに向けて始動しています。4年後大きな花を咲かせてほしいですね。みんなで応援しましょう!



深谷中学校

深谷歴史探訪

「深谷を世界に向けて発信する」。当然英語でのプレゼンです。

そこで、11月8日(火)、プレゼン

深谷中学校が開校して、今年で四年目になります。開校以来、中高一貫コースでは、グローバル人材の資質の育成を掲げて教育活動を展開してきました。グローバルな人材とは、確かな学力や高い語学力を備えていることは勿論のこと、相手の意見に真摯に耳を傾け、自分の意見をしっかりと述べ、議論もしっかりとできる人間のことです。そのための方針として、本校では毎年プレゼンコンテストを開催しています。そこでは、中学1年が「自分史」を、中学2年が「職業について」または「日本の農業について」を、そして、中学3年が修学旅行の目的地「マレーシア、シンガポールについて」を



テーマに挙げて、発表を行いました。そんな中、今年度4年生になった一期生のテーマは

深谷高校

素敵な素敵な修学旅行

2年G組 太田ひより

オーストラリア二日目の夜、ファームステイ先で私はクラスメイトと4人でベランダから星を見ました。溢れんばかりの満天の星。その中で一番輝いていたのは金星でした。ヨーロッパでは、明けの明星の、何にも勝る輝きを、穏やかな美と愛の女神アフロディーゼ(ビーナス)に喩えています。その夜の空は、まさに穏やかで美しく、私たちを優しい気持ちにさせてくれるものでした。そんな幸福な時間を私たちに与えてくれた修学旅行は、言葉では表せないほど素敵で、刺激的でした。ブリスベン空港から一歩踏み出すと、雲一つ無い青空と弱まることを



知らない日差しが私たちを出迎えてくれました。バスに乗ってコアラ保護区でコアラを抱っこして写真を撮影した後に、私の一番の楽しみにしていたファーム先に行きました。ホストファミリーは私たちにたくさんのお話を聞かせてくれました。飼っている牛の世話、フルーツケーキ作り、ピクニック等どれも楽しいことばかりでした。その中で、ホストファミリーとたくさん話ができただけで、印象に残っています。私は英語がとても苦手でホストファミリーと話せるのが不安でしたが、一言ずつゆっくり話してくれて私も少しずつ英語を使うことができました。星空を見ていたときも、ホストファミリーと一緒に英語で「きらきら星」を歌いました。しゃべれなくても歌で繋がれたときは感動して涙が出そうになりました。

今回の修学旅行を通して、語学力の必要性を痛感させられました。もっと英語が喋れたらよかったです。と何回も思いました。

私たちは春になると受験生になります。「これからは避けていた英語に目を向けて勉強に励みたい」、英語が苦手な私をこんな気持ちにしてくれたオーストラリアに、感謝しています。そしていつか英語を話せるようになつて、もう一度オーストラリアに行きたいです。

幼稚園

防災への取り組み・起震車体験実施

近年、日本列島では大きな震災が各地で起こり、多くの被害が発生しております。また異常気象で台風や大雨による水害など、いづどこで災害が発生するかわかりません。幼稚園では、平成28年度事業計画の目標の中で防災について取り上げております。従って、常日頃から地震や火災などの災害を想定した避難訓練を実施しております。初めは3歳児にとつて、防災頭巾を被り机の下にもぐることも不安な気持ちでしたが、訓練を重ねるごとに、全園児が素早く安全に園庭に避難する意識がもてるようになりました。



好天に恵まれた11月30日、東京都北区防災係の方が来園され、年長組の子ども達に、防災の紙芝居を使って火災の怖さなどを園児にもよくわかるよういろいろな指導してくださいました。

起震車「なます号」乗車体験

そして園庭では、起震車によるさまざまな揺れを感じる地震体験をしました。「なます号」に4人ずつ乗り、震度5から震度6強などを数秒ずつ体験しました。始めは大きな揺れに戸惑う表情も見られましたが、地震の怖さが理解できたようです。子ども達は日頃の訓練の成果で、どの子ども素早く身を守る動きができました。これまでの避難訓練の経験から、地震が起きた時にどう行動したら良いか、子ども達自身が心得ていたのと、とてもスムーズに避難動作ができていたようです。災害が起こった時、落ち着いて行動する大切さなど、いろいろな具体的に体験することで、防



災への意識を更に高めることができました。今後も防災への知識を深め、訓練などを実施してまいります。

第二幼稚園

ゴミスクール

7月13日(水)さいたま市西清掃事務所の皆さんによる出前授業がありました。ゴミ収集の仕方やリサイクルについて教えていただきました。まずは、ゴミ収集車の説明を受け、実際に運転席に乗せてもらいました。次に大型紙芝居でゴミの分別方法について教えていただき、最後にさいたま市PRキャラクター「つなが竜ヌウ」から塗り絵などのプレゼントをもらったり、一緒に記念撮影をしたりして環境教育の一端を学びました。



異年齢交流
9月14日(水) 在園児のおじいさ

んおばあさんと与野ハウス在住の方々をお招きして、いろいろな遊びを一緒に行いながら交流を図りました。グループごとに自己紹介をしてから(写真)、折り紙、こま、けんだま、かるたなどを一緒に教室で行ったり、園庭ではゴム動力の飛行機を飛ばしたりして交流を図りました。最後には、「さんぽ」の曲を一緒に歌い楽しい時間を過ごしました。



休園のお知らせ

第二幼稚園は、四十年余にわたり地域の皆様に親しまれ支えられて発展して参りましたが、幼稚園が入居するマンションの耐震の関係で、平成29年度から当分の間、休園をすることになりました。

平成 29 年入試カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1月						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10 ・深谷中	11 ・深谷中	12	13	14 ・深谷中
15	16	17	18	19	20	21
22 ・高校 ・深谷高	23	24	25 ・深谷高	26 ・高校	27	28 ・深谷中
29 ・大学院 ・大学 ・短大	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
2月						
			1 ・中学	2 ・中学	3 ・中学	4
5 ・中学	6	7 ・大学 ・短大	8	9	10 ・高校	11
12	13	14 ・高校	15	16 ・深谷高	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28 ・大学 ・短大				

※最新の情報については各校ホームページ等でご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
3月						
			1	2	3	4
5	6	7	8	9 大学(経営・臨床のみ)	10	11 ・深谷高
12	13	14 大学(人文・福祉・ 健康のみ)	15	16	17	18
19	20	21 大学(経営のみ)	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



学校法人 **東京成徳学園**

<http://www.tokyoseitoku.ac.jp>

東京成徳大学大学院

<http://www.tsu.ac.jp/gra>

電話 03-5948-5161

心理・教育相談センター

<http://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx>

電話 03-5948-5162

東京成徳大学

<http://www.tsu.ac.jp>

十条台キャンパス

電話 03-3908-4530

八千代キャンパス

電話 047-488-7111

東京成徳短期大学

<http://www.tsu.ac.jp>

電話 03-3908-4530

東京成徳大学中学校・高等学校

中高一貫部

<http://www.tokyoseitoku.jp/js>

電話 03-3911-2786

高等部

<http://www.tokyoseitoku.jp/hs>

電話 03-3911-5196

東京成徳大学深谷中学・高等学校

中学校

<http://www.tsfj.jp>

電話 048-573-1784

高等学校

<http://www.tsfh.jp>

電話 048-571-1303

東京成徳短期大学附属幼稚園

<http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind>

電話 03-3911-6337

東京成徳短期大学附属第二幼稚園

<http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind>

電話 048-854-2151

東京成徳スイミングスクール

電話 03-3914-2383

学校法人 東京成徳学園 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室 東京成徳広報 第41号 平成29年1月発行